

宿泊山行

たてやまさんざん おやま おおなんじやま ふ じ の おりたて

立山三山（雄山、大汝山、富士ノ折立）縦走

地形図 1/2.5 万地図 立山
標 高 大汝山 3015m
期 日 令和 7 年 8 月 23 日（土）～8 月 24 日（日）
所在地 立山町
参加者 10 名（男性 5 名・女性 5 名）

<1 日目>7 年 8 月 23 日（土）晴れ

立山駅→室堂→一ノ越→雄山→大汝山→真砂岳分岐→内蔵助（くらのすけ）山荘

- 7:00 立山駅集合 立山～大日岳縦走の参加者とともに 2 階ケーブル改札付近に集合する。
- 7:40 立山ケーブル出発
- 7:48 美女平到着
- 7:53 高原バス出発
- 8:39 室堂到着
- 9:00 立山～大日岳縦走グループが先に出発して行った。
- 9:05 身支度、集合写真撮影の後、室堂を出発する。
多くの登山者に混じり、傾斜の緩やかな石畳の登山道を登って行く。若い登山者、軽装の人が多く、外国語の会話も時々聞こえる。
途中、休憩を 2 回、9:33 から 5 分程度、9:51 から 5 分程度取った。
- 10:10 一ノ越到着
- 10:25 ヘルメットを装着し、一ノ越を出発する。
急勾配のガレ場が続く、ヘルメットが必要なことを実感する。



青空の下、先ずは雄山へ！

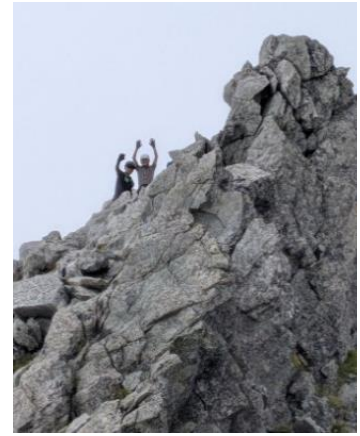
- 途中、休憩を 3 回、10:40 から 5 分程度、11:05 から 10 分程度、11:40 から 5 分程度取った。若い人の集団がどんどん追い抜いて行く。
- 11:55 雄山に到着し、小さな鳥居の前で集合写真を撮影した後、各自昼食を摂る。O さん自家製のきゅうりとなすの漬物が回ってきた。

雄山だけあって登山者は多い。また、当日立山登山マラニック（水橋～雄山）が行われており、ゼッケンをつけた軽装の登山者が何人か拍手を受けながらゴールインしていた。

12:50 雄山出発 縦走路に入ると、時々すれ違いや追い越しはあるものの、雄山山頂付近に比べて登山者の数はかなり少なくなった。

13:13 大汝山到着

13:37 富士ノ折立到着（富山平野から見える台形状の上底の左端に当たる所）二人が空身で頂上へ行く。頂上への道はかなり急で狭く、ペンキの表示も鎖もなかった。しかし、きちんと三点支持を守れば登ることができた。



富士ノ折立登頂！

14:23 大走り分岐到着 雷鳥沢への道が下に続いている。

14:33 真砂岳到着 真砂岳は花崗岩や花崗岩由来の砂礫が多く、全体的に色が白い。

14:52 別山分岐到着

15:03 内蔵助山荘到着 小屋からは西側に明日登る予定である別山と別山北峰に連なる稜線が見えていた。二人が展望台へ行く。
富士ノ折立から真砂岳に至る稜線の東側（室堂の反対側）に雪溪があり、その下に内蔵助氷河が埋もれていること、GPS を用いた測定によると氷河が年に数センチずつ動いているとの説明が表示してあった。

何人かの人ビール、缶酎ハイで乾杯を始める。食事の時間が最後のグループになったため、それまで全員が談話室に集まり談笑する。

17:50 夕食 主な副菜はアジフライ、キャベツの千切り、カボチャペースト、タケノコ煮物、オレンジなど、あとはごはんとなめこ味噌汁であった。食後、各自着替え、歯磨きをすませる。男女別5人ずつ、約6畳の二部屋であった。

19:50 消灯、就寝

<2日目> 7年8月24日（日）晴れ

内蔵助山荘→別山→別山北峰→別山→剣御前小舎→新室堂乗越→雷鳥沢→室堂→立山駅

- 4:20 起床 明け方、部屋の窓から無数の星が見えた。中に流れ星のようだが途中で消えないものがあり、地球を周回する人工衛星ではないかと思われた。

また、暁の空に後立山連峰の山並みが連なっており、特徴的な形の白馬岳、大きく尖った三角錐の山（鹿島槍ヶ岳とのこと）などが見えた。



八ツ峰を眺望

別山方向を見ると、北峰の後ろに劔岳の頂上部分が隠れており、右側に鋸状の八ツ峰が続いていた。

- 5:20 朝食 ごはん、味噌汁、海苔、スクランブルエッグ、ウインナー、キャベツの千切り、らっきょう、梅干しなど。食後、各自洗面、身支度をすませる。

- 6:20 内蔵助山荘出発
食事時間が最初のグループに変更されたため、出発時間も早くなった。

- 6:53 5分程度休憩

- 7:33 別山到着 空は快晴で、劔岳南面、劔山荘が間近に見えていた。
集合写真を撮る。9人が別山北峰へ空身で往復した。

- 7:55 別山出発 大日岳、中大日岳、奥大日岳の三山が西方向の少し下に見え、こちらの標高が高いことを実感する。
また、昨日から歩いたコース全体と室堂平を見渡すことができた。

- 8:24 劔御前小舎到着

- 8:31 劔御前小舎を出発する。ジグザグの下りで、岩も多く思いの外歩きにくい道が続いた。
徐々に雷鳥沢のオレンジ色や青色のテント群が大きく見えるようになってくる。
チングルマの最盛期は過ぎて、ピンク色の綿毛状となっており、また連日の猛暑のためか、コバイケイソウの葉が一部茶色く変色していた。
奥大日岳からの合流点（新室堂乗越）を過ぎ、さらに下っていく。途中に湧き水の出ている所があり、手を浸すと冷たかった。



新室堂乗越より大日三山

- 10:10 雷鳥沢到着

- 10:17 休みもそこそこに雷鳥沢を出発する。石畳の上り階段が続き、心拍数が上がる。

地獄谷付近ではハイマツが火山ガスで枯れており、道端に防毒マスクが備

蓄されていた。

河原近くに茶色い物体のようなものを発見し、熊ではないかとの話も出たが、しばらく見ても動かないことから熊ではないと思われた。

- 11:15 みくりが池温泉到着 希望者は入浴し、各自昼食をすませる。売店のソフトクリームが大人気で長い行列ができていた。
- 12:16 みくりが池温泉出発 室堂ターミナルが近づき、観光客が多くなってくる。
- 13:00 室堂を高原バスで出発 乗客は多いが、臨時便が出ているため待ち時間は短い。チケットを購入した後に列に並ぶ必要があった。
- 13:37 美女平到着 ただちに立山ケーブルに乗り換える。
- 13:59 立山駅到着 短いミーティングと GCL による総括の後解散となった。

今回は室堂平を見下ろしながら標高 3000m 近い稜線を約半周するコースで、好天に恵まれ、たいへん印象深い山行となりました。何より、トラブルなく全員が無事に山行を終えられたことが良かったと思います。別山、みくりが池温泉での荷物の見張りやバスチケットの手配などグループのため献身的に行動して下さった GCL の IJ さん、GSL の YS さん（男性）、YS さん（女性）、多くの写真を撮影して下さいました SS さん、ありがとうございました。終了後、参加者からグループトークに多くの感謝の言葉が寄せられたことを付記いたします。

(No. 895 K・A)